

業務システムの最適解を目指す

Windowsシステム 拡充プロジェクト

株式会社電通国際情報サービス RiskTaker

みなさん、銀行の融資業務ってものすごいコストがかかるって知ってました？ 顧客情報の管理、膨大な報告書の作成、日銀による規制への対応など、融資担当者はさまざまな業務をこなさなければならないのです。今回は、このような負担を取り除くために開発された融資システムについて紹介しましょう。

融資業務の実際

銀行の融資業務といえば、不景気による貸し渋りを問題視することが多いが、融資業務における銀行側の負担が表沙汰にされることは少ない。電通国際情報サービスの佐藤治己氏は、融資業務の負担について次のように語る。

「銀行は顧客から融資を依頼されると、融資の実行可否を判断するために稟議書を回付します。この際、融資の基本条件を記載した申請書とともに、顧客の各種属性情報を記載した分厚い報告資料を紙ベースで回覧するため、承認者は多大な負荷を抱えています。

また、担当者が報告資料を作る際、

財務／債権／担保情報などを取りまとめる必要があります。現状これらの情報はサブシステムごとに管理されているため、散在する情報から必要なデータを抽出するコストは相当なものです」

このような融資業務の負担を軽減するという目的で作られたのが、今回紹介する「RiskTaker」だ。

RiskTakerの全貌

RiskTakerは、.NET Framework対応のWebシステム。大きく分けると「融資統合基盤」と「融資関連業務モジュール群」という2つの機能群から構成される(図1)。この融資統合基盤とはどのようなものなのだろう。

「融資統合基盤では、融資システムを構築するために必要な基本機能が用意されており、4つの機能群から構成されています。

融資支援データベースは、サブシステムごとに管理されている各種データを取り込んで、一元管理するためのデータベースです。

共通システム基盤は、セッション管理、画面遷移制御など、.NET Frameworkの標準機能だけではカバーしきれない機能を提供します。また、システ

ムを開発するための規約をまとめたガイドラインも用意されています。

ワークフローコンテンツ管理エンジンは、申請～最終承認までのワークフローにおいて、各案件のステータスとユーザーグループを管理します。

融資ソリューション共通基盤は、ユーザーごとにメニュー表示の権限を与えるメニュー管理機能や、融資に携わる銀行員を管理するユーザー管理機能など、融資業務の必須機能群です」

一方、融資関連業務モジュールとは、融資業務に特化した機能群のことで、5つのモジュールから構成されている(表1)。ここでは、あまりなじみのない機能について聞いてみた。まずは格付／自己審査モジュールから。

「格付とは、融資依頼者の支払い能力をランク付けする業務です。顧客の格付情報は随時資料として作成するように取り決められています。格付モジュールを使えば、決算書入手、延滞発生など、各顧客の信用情報を管理し、最新の信用状況を把握できます。

また、自己査定とは、顧客に対する債権、担保状況を把握し、顧客に対し保持する債権回収の可能性を算出する業務です。四半期ごとに算出結果(分



株式会社電通国際情報サービス
ビジネスソリューション事業部
金融ソリューション開発3部 シニアエンジニア
佐藤 治己

